

**「マイナビ 2024 年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査(7月)」を発表
7月末時点でインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加したことがある割合は前年より9.5pt増の53.9%
インターンシップ・ワンデー仕事体験に参加して得られたことは「特定の企業のことをよく知ることができた」**

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：土屋芳明）は、2024年3月卒業予定の全国の大学3年生、大学院1年生（4,251名）を対象に実施した、「マイナビ 2024 年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査（7月）」の結果を発表しました。

《TOPICS》

- ◆ 7月末時点でインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加したことがある割合は前年比9.5pt増の53.9%【図1、2】
- ◆ インターンシップ・ワンデー仕事体験に参加して得られたことは「特定の企業のことをよく知ることができた」が58.3%で最多【図3、4】
- ◆ 夏季休暇中にしたいと思っていることは「インターンシップ・ワンデー仕事体験への参加」が74.6%で最多【図5】
- ◆ 現在の就活準備レベルの自己採点は36.1点で前年よりも向上。「就職活動の方向性が固まっている」は前年比1.8pt増の34.5%【図6、7】

【調査概要】

これまでにインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加したことがある学生は、7月末時点で前年比9.5pt増の53.9%だった。7月単月でも前年比9.2pt増の43.3%となっており、24年卒学生は前年以上に積極的にインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加している。【図1、2】

インターンシップ・ワンデー仕事体験に参加して得られたと思うことは「特定の企業のことをよく知ることができた」が58.3%で最多、次いで「視野を広げられた」が55.8%で半数を超えた。インターンシップ参加が「志望企業の絞り込み」と「志望対象の拡大」の両方に役立っていることがわかる。また、自由回答では「他大学の人と交流するなかで自分を客観視することができた」や「社会人を疑似体験できた」などの意見がみられた。【図3、4】

夏季休暇中にしたいことは「インターンシップ・ワンデー仕事体験への参加」が74.6%で最多だった。また、「インターンシップ・ワンデー仕事体験への参加準備」が48.3%と、多くの学生が夏季休暇を利用してインターンシップ・ワンデー仕事体験に関する活動を予定していることが分かる。【図5】

現在どのくらい就活準備ができているかを自己採点してもらったところ、「21～40点（あまりできていない）」が最も多く40.8%だった。全体的には前年と同様の傾向だが、平均点は前年比5.4点増の36.1点で準備レベルは向上している。就職活動に関する今後の方向性については、「就職活動の方向性は検討中」が最多で62.9%（前年比1.2pt減）、一方で「就職活動の方向性が固まっている」が34.5%（前年比1.8pt増）と前年よりも微増していた。就職活動について考えが固まってきた人の割合が前年に比べてわずかに高い結果となった。【図6、7】

【調査担当者コメント】

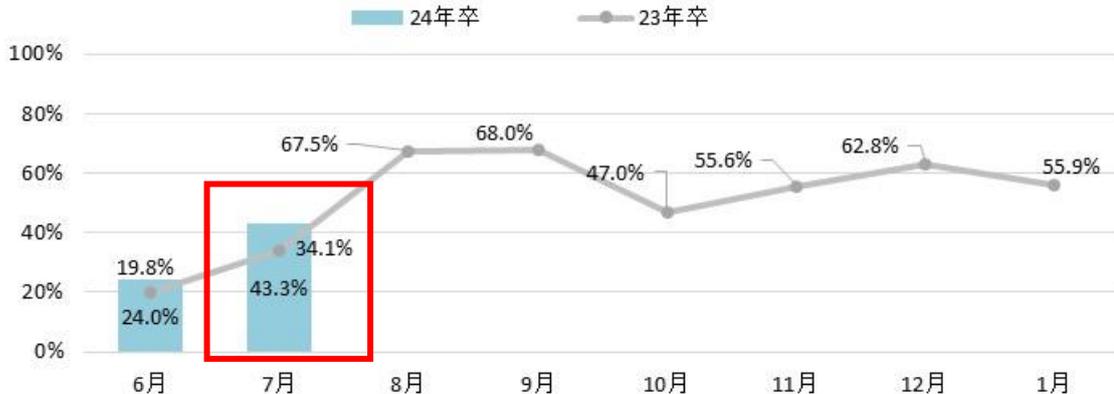
7月時点ですでに半数以上の人が入インターンシップ・ワンデー仕事体験に参加しており、早い段階からキャリア観を醸成していることがわかります。夏季休暇でもインターンシップ関連の活動が目立ち、今後も積極的に活動する学生が増えていくと思います。また、就活準備レベルの自己採点も前年より向上し、インターンシップの参加経験が準備を後押ししているようです。しかし経験すればいいという話でもなく、重要なのはこの経験から何を学ぶかです。まだインターンシップ・ワンデー仕事体験に参加したことがない方も、最近では短期間で気軽に参加できるプログラムも増えていきますので、未参加の方についてはまずは経験してみることが大切です。そこからきっと気付きや学びが見えてくると思います。自由な時間が増える夏季休暇をぜひ活かしてください。

キャリアリサーチラボ 主任研究員 東郷こずえ

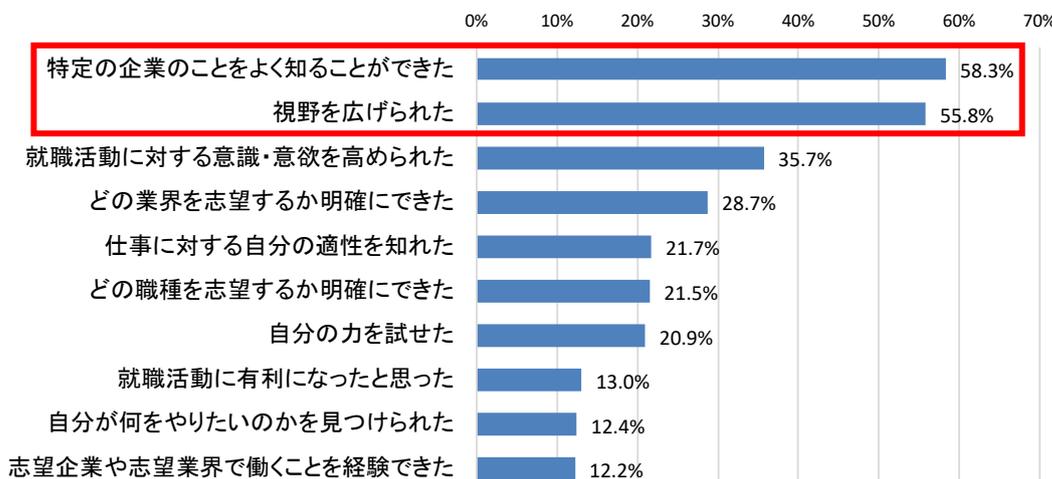
【図1】 これまでにインターンシップに参加したことがある割合の推移（累計）



【図2】 7月インターンシップに参加した割合の推移（単月）



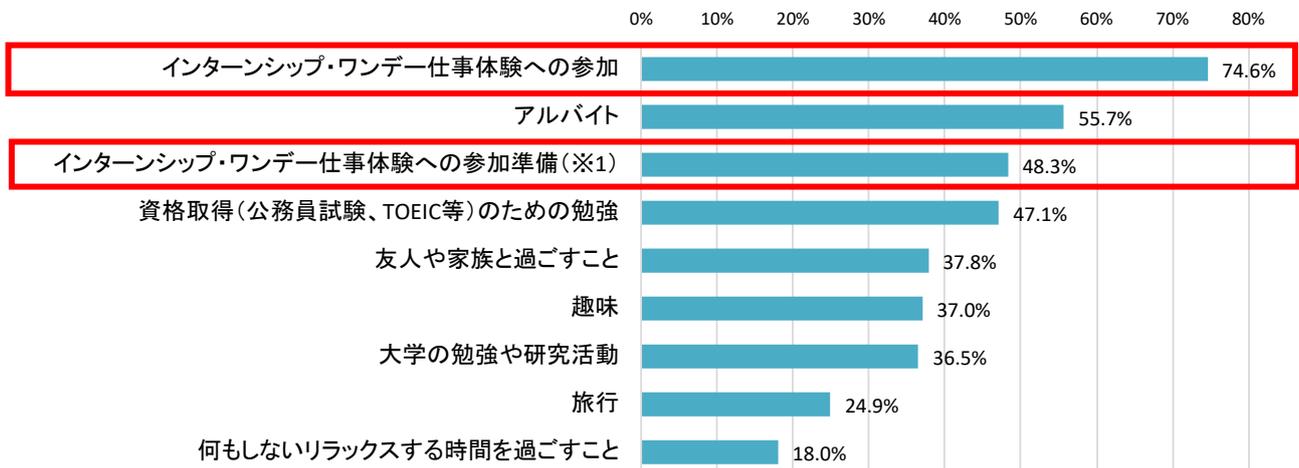
【図3】 インターンシップ・ワンデー仕事体験に参加して得られたと思うことは何か（上位抜粋）



【図4】 インターンシップ・ワンデー仕事体験のプログラムに参加してよかったと思うこと
(自由回答)

| 属性 | エリア | 内容 |
|------|-----|--|
| 理系男子 | 関東 | 自分が志望している業界・企業にどのような就活生が集まっているのか知ることができ、就職活動の意欲を向上できたことです。自己紹介をする中で、各参加者の大学名や専攻などについて聞く機会がありました。そこで、 自分の立ち位置が明確になりました。 参加を通じて自分が目指す業界・企業はレベルが高く、このままでは納得して内定を承諾することが難しいという結論に至りました。そして、就職活動の意欲が向上し 企業研究や適性試験の学習をより高い意識を持って取り組むようになっただけでなく、資格試験に向けた学習やプログラミング学習といった自主的に行動する能力を養うことができました。 |
| 文系男子 | 関東 | 色々なISに参加したことで、人事の方や社会人の方のお話を多く聞くことが出来、何を大事にすべきかなどを採用する側の立場から視点で見ることが出来たというのも大きかったと考えている。 自分自身のことをよく知ること、相手のことをよく知り、仕事の内容も把握することなど、今の自分に何が足りていないのかを理解することが出来た。 それと同時に、今の自分がやるべきことを自然と見出すことが出来たと思う。 |
| 理系女子 | 九州 | グループワークを通して、希望職種を体験することで、職種への理解を深めることが出来た、 また、社員の方からのフィードバックもあり、グループディスカッションの練習の良い機会になった。また、質疑応答の時間を長く設けてくださったので、 ネットにはない情報を色々伺うことが出来、企業への理解がかなり深められた。 |
| 文系女子 | 関東 | インターンシップやワンデー仕事体験の前には当然企業研究を行なうが、その時 自分が導き出した企業のイメージとプログラムに参加して得たイメージが案外食い違うことが多かった。 自分で得た印象よりも実際に話を聞いた方が印象が良くなったということは少なかったが、おかげで 自分の企業研究の甘さに気付くことができたし、高校時代より頑なに変えなかった進路以外の別の道を見出すきっかけにもなった。 とにかく、実際に話を聞くのはとてもためになることだと分かった。 |
| 理系男子 | 中国 | インターンシップ・ワンデー仕事体験のプログラムに参加してよかったと思うことは、大きく分けて2つあります。1つは、実際に職場の雰囲気や仕事を体験できたことです。 実際に目で見て触れることで、就職後のビジョンが想像できるようになりました。 2つ目は、社会人としての在り方を考えるきっかけになったことです。 大学生活では感じる事ができない、責任感を強く意識しました。 |
| 文系女子 | 九州 | インターンシップの期間は3ヶ月で長期でしたが、 自分が卒業後、どの職種についているのか、自分はどの職種が向いているのかを知ることができました。 また、インターンシップに参加することで、社外の人からはその職場の一人として見られ、責任を持った行動をすることができ、 模擬社会人の体験が出来ました。 |

【図5】 大学の夏季休暇（8-9月）はどのように過ごしたいか。
特に時間を取りたいと思っているもの（上位抜粋）



※1: 応募先の検索や選考対策など

【図 6】現在の就活準備レベル

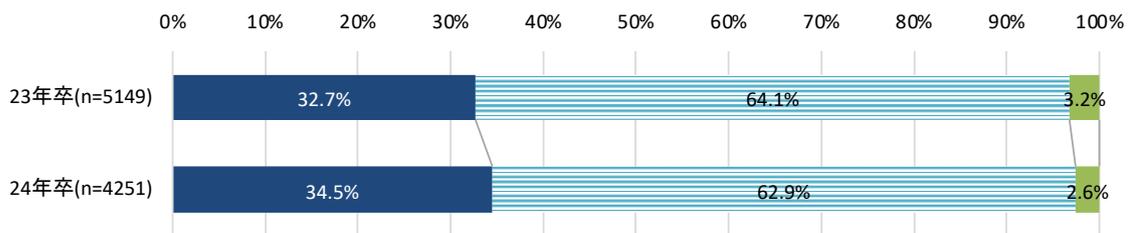
(何も準備していない状態を 0 点、完璧な状態を 100 点として)

- 0点～20点(全くできていない)
- 21点～40点(あまりできていない)
- 41点～60点(どちらともいえない)
- 61点～80点(ある程度できている)
- 81点～100点(十分できている)



【図 7】就職活動に関する今後の方向性について

- 就職活動の方向性(志望業種や企業、職種、大事にしたい価値観など)が固まっている
- 就職活動の方向性は検討中
- 就職活動のことはまだ考えていない



【調査概要】「マイナビ 2024 年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査 (7月)」

- 調査期間/2022年7月20日(水)～7月31日(日)
- 調査方法/マイナビ2024の会員に対するWEBアンケート
- 調査対象/2024年3月卒業見込みの全国の大学3年生、大学院1年生
- 調査機関/自社調べ
- 有効回答数/4,251名(文系男子710名 理系男子754名 文系女子1,874名 理系女子913名)
- ※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

※調査結果の詳細は会社HPのニュースリリース (<https://www.mynavi.jp/news/>) からご確認いただけます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社マイナビ
 キャリアリサーチラボ 主任研究員 東郷
 Email : myrm@mynavi.jp

【当社に関するお問い合わせ先】

株式会社マイナビ
 社長室 広報部 石井
 Email : koho@mynavi.jp